

課題名：精神・神経疾患治療薬及びがん治療薬におけるファーマコゲノミクス研究
(代表者：蒔田 泰誠 国立研究開発法人理化学研究所)

ラモトリギン、レゴラフェニブ、トラスツズマブを含む複数の薬剤の副作用と関連する SNP や遺伝子を特定し、その一部は独立サンプルでの再現性を確認するなど、ファーマコゲノミクス研究としての戦略が十分に遂行され、今後の層別化医療に資する基盤を構築した。臨床ゲノム薬理データベースは、医療分野の進展に資するものである。

一方で、国際的なアピールや若手研究者のキャリアパス支援に乏しく、検討すべき課題になるだろう。今後の臨床応用への展開において、重要となる副作用リスク予測アルゴリズムに関しては、フェニトイン誘発薬疹について AUC0.686 という必ずしも十分とは言えない予測結果しか示されていない。遺伝子検査精度の更なる向上が、実臨床において活用されるには必要であろう。